

建築物と障壁画の関係について

大阪芸術大学 工芸学科 教授 五十嵐公一

「建築物と障壁画の関係について」という研究課題のもと、先ず注目したのが滋賀県大津市にある三井寺塔頭・法明院の建築物とその障壁画だった。

これについては土居次義「法明院の障壁画—大雅・応挙の襖絵その他—」(『美術・工芸』9、1942年)という基本論文がある。法明院には円山応挙(1733~95)、池大雅(1723~76)、鶴澤探索(1729~97)、大森捜雲、勝山琢舟という江戸時代中期に京都で活躍した絵師たちが描いた複数の障壁画が部屋を飾っている。これらの障壁画のうち円山応挙が描いたものには「仙嶺」の署名があることから、明和2年(1765)頃に描かれたことが分かる。仙嶺はこの時期にだけ多用された署名だからである。この事実をもとにし、法明院が建てられた時期、円山応挙以外の絵師たちが障壁画を描いた時期を明和2年頃だろうと土居次義氏は考えた。その見解は納得できるものであり、長く定説となっている。建築物が完成し、それと同時に障壁画も完成するのだから当然である。

ところが、この定説を再検討する必要が出てきた。2019年、大津市歴史博物館が企画展「フェノロサの愛した寺 法明院—三井寺北院の名刹」を開催した。その開催に先立ち、展覧会内容を充実させるため大津市歴史博物館が法明院の関係史料を徹底的に調査した。そこで、今まで注目されていなかった「照高院宛御殿寄進願につき口上」「法明院玄関・庫裏普請願書下書」「法明院追普請願書」という3つの史料から重大な事実が分かった。現在の法明院の建物は、明和2年(1765)正月から明和3年6月までの間に大増築されているという事実が分かったのである。法明院の建物は明和2年頃、新築されたものではなかったのである。しかし、先に記したように、その法明院にある円山応挙の障壁画が明和2年に描かれたことは間違いない。そこで法明院の建築物と障壁画について、先の3つの史料を踏まえて考え直す必要が出てきたわけである。

私は企画展「フェノロサの愛した寺 法明院—三井寺北院の名刹」の担当者である大津市歴史博物館学芸員鯨井清隆氏にお誘いいただき、法明院の調査に参加することができた。先の3つ史料の存在も企画展開催前の早い段階で知ることができた。そこで法明院の大増築という事実を踏まえ、法明院の障壁画について改めて考えた。その成果が、五十嵐公一「法明院障壁画について」(『藝術(大阪芸術大学紀要)』42、2019年12月)である。その内容は次の通りである。

現在の法明院の建築物のうち、明和2年(1765)正月から明和3年6月までの間に増築されたのは、円山応挙、大森捜雲、勝山琢舟、鶴澤探索の障壁画がある

部屋である。つまり、池大雅の障壁画がある部屋はこの大増築以前から存在していた建物だった。ということは、池大雅の障壁画だけは他の障壁画と切り離して考える必要がある。ただ、池大雅の障壁画には「王皇香案史」(朱文方印)が捺されていて、この印の欠損状態は明和2年以前のものではない。印は使用されるに伴い欠損してゆく。その点に注目した判断である。大雅が描いた障壁画の正確な制作時期は分からないが、大増築後のしかるべき時期に新たに描かれたと考えた方がよい。

また、「照高院宛御殿寄進願につき口上」「法明院玄関・庫裏普請願書下書」「法明院追普請願書」の3つの史料を読み込むと、法明院の大増築で大きな役割を担ったのが照高院の忠誉法親王(1722~88)だったことが分かる。この忠誉法親王は中御門天皇(1702~32)の第三皇子であり、異母兄に桜町天皇(1720~50)がいる人物である。忠誉法親王は享保18年(1733)に聖護院に入り、その後に園城寺(三井寺)長史も務めた。そして宝暦2年(1753)、聖護院門跡を辞して照高院に移っている。明和2年(1765)正月から明和3年6月までの間に大増築された法明院の建物は、その照高院の建物を移築したものだ。その背景には忠誉法親王と園城寺(三井寺)の関係があったわけである。

そして興味深いことに、法明院に障壁画を残す絵師たちのうち少なくとも円山応挙、池大雅、鶴澤探索の三人は直接的あるいは間接的に忠誉法親王と何らかの関係があったことが複数の史料から分かる。つまり、この忠誉法親王を軸に法明院の建築物と障壁画は考えることができるのである。

法明院の建築物と障壁画について、以上のことが分かった。これは大津市歴史博物館のご厚意、そして「照高院宛御殿寄進願につき口上」「法明院玄関・庫裏普請願書下書」「法明院追普請願書」の3つの史料があったからこそ分かったことである。この事例を踏まえ、「建築物と障壁画の関係について」という研究を進めるため、法明院以外に関しても調査を行った。次の成果が出るには、まだ少し時間がかかりそうだが、今後もこの問題を継続して考えていく予定である。